

洪水

雨量の目安・気象情報の種類と基準

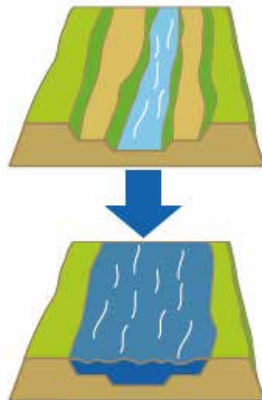
洪水

洪水とは大雨によって、川の水の量がふだんより、いちじるしく増えた状態をいいます。

河原へ行くと広い敷地のわりに細い川しか流れていませんが、それがふだんの姿です。

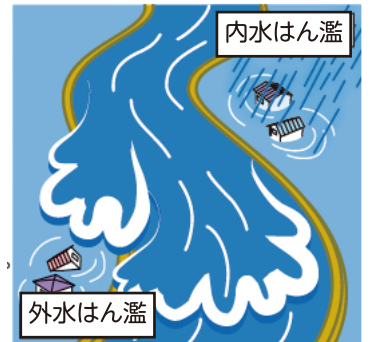
ところが川幅いっぱいにおしよせると、広い河原も水の下にかくれて見えません。

このように異常に水が増えたときを「洪水」といいます。



はん濫

はん濫とは、雨などによって、街や農地などに水があふれることで、川から水があふれることを「外水はん濫」といいます。川から水があふれたのではなく、街や農地に降った雨がそのままあふれることを「内水はん濫」といいます。



❗ 下記のような前ぶれに注意して、危険を感じたら速やかに避難しましょう

- 堤防の川側が崩れ始めたとき
- 増水が早く、水が堤防を越えそうとき
- 水かさが増し、堤防に亀裂が生じたとき
- 水が激流となって堤防の土が削り取られたり、護岸が壊れ始めたとき
- 堤防の側面から水が漏れ出したとき
- 堤防近くの地盤から水が噴き出すとき

河川水位及び危険度レベル

以下の情報を参考に、洪水時における対応についてあらかじめ確認しておきましょう。

色が持つ意味	状況	住民等の取るべき行動	行動を促す情報	相当する警戒レベル
災害切迫 大雨特別警報 (浸水害)の指標に用いる基準に到達	重大な洪水災害が切迫。 洪水災害が <u>すでに発生している可能性が高い状況</u> 。	命の危険 直ちに安全確保	緊急安全確保	5相当
<警戒レベル4までに必ず避難!>				
危険 3時間先までに 警報基準を大きく超過した基準に到達すると予想	水位周知河川・その他河川がさらに増水し、 <u>今後ははん濫し、重大な洪水災害が発生する可能性が高い状況</u> 。	危険な場所から全員避難	避難指示	4相当
警戒 3時間先までに警報基準に到達すると予想	洪水災害への警戒が必要な状況。	危険な場所から高齢者等は避難	高齢者等避難	3相当
注意 3時間先までに注意報基準に到達すると予想	洪水災害への注意が必要な状況。	自らの避難行動を確認	大雨・洪水注意報(気象庁)	2相当
今後の情報等に留意	—	災害への心構えを高める	早期注意情報(気象庁)	—

国土交通省・気象庁ホームページより一部を抜粋、編集して掲載

● 筑後川河川事務所(雨量・水位リアルタイム情報)

筑後川の現在の様子をインターネットでご覧いただけます。

国土交通省 九州地方整備局 筑後川河川事務所

<http://www.qsr.mlit.go.jp/chikugo/bousai/uryosuii/index.html>

携帯電話、スマートフォンの方は
こちらのQRコードから接続できます。

※ QRコードは(株)デンソーウェーブの登録商標です



まずは、確実な情報が大事
その次に迅速な対応



風水害・台風

大雨や強風はわたしたちに何度も大きな災害をもたらしています。
普段から気象情報に十分注意し、避難の際もみんなで協力しましょう。



佐賀地方気象台発表基準
(令和6年5月23日現在)



雨量の目安・気象情報の種類と基準

大雨注意報・大雨警報・記録的短時間大雨情報の発表基準

大雨注意報	大雨警報	大雨特別警報	記録的短時間大雨情報
大雨による災害が発生するおそれがあると予測される場合。	大雨による重大な災害が発生するおそれがあると予測される場合。	大雨による重大な災害の起こるおそれが著しく大きい場合。	土砂災害や浸水害、中小河川の洪水害の発生につながるような猛烈な雨が降っている場合。

表面雨量指数は、短時間強雨による浸水害リスクの高まりを示す指標です。
土壌雨量指数は、降雨による土砂災害リスクの高まりを示す指標です。

雨の強さと降り方

やや強い雨	強い雨	激しい雨	非常に激しい雨	猛烈な雨
1時間雨量10～20mm	1時間雨量20～30mm	1時間雨量30～50mm	1時間雨量50～80mm	1時間雨量80mm以上
ザーザーと降り、雨の音で話し声が良く聞き取れない。この程度の雨でも長く続く時は注意が必要。	どしゃ降り、傘をさしてもぬれる。ワイパーを速くしても見づらい。側溝等があふれる。	バケツをひっくり返したように降り、道路が川のようになる。危険地帯では避難の準備が必要。	滝のように降り、傘は全く役に立たなくなる。土石流が起こりやすい。多くの災害が発生する。	息苦しくなるような圧迫感があり、恐怖を感じる。大雨による大規模な災害が発生するおそれが強く、厳重な警戒が必要。

※1時間雨量が110mm以上になると、記録的短時間大雨情報が発表されます。

風の強さと吹き方

10m/秒以上～15m/秒未満	15m/秒以上～20m/秒未満	20m/秒以上～30m/秒未満	30m/秒以上～
風に向かって歩きにくくなる。傘がさせない。	風に向かって歩けない。転倒する人もいる。	しっかりと身体を確保しないと転倒する。風で飛ばされた物で窓ガラスが割れる。	屋外での行動は危険。走行中のトラックが横転する。

台風

日本には毎年多数の台風が接近あるいは上陸し、たびたび大きな被害をもたらします。
台風の接近が予想される際は、台風情報に十分注意し、被害のないように備えることが必要です。

大きさ	風速 15m/秒 以上の半径	強さ	最大風速
大型(大きい)	500km 以上～800km 未満	強い	33m/秒 以上～44m/秒 未満
超大型(非常に大きい)	800km 以上	非常に強い	44m/秒 以上～54m/秒 未満
		猛烈な	54m/秒 以上

(ページ内の図表は気象庁ホームページより抜粋、編集)

集中豪雨

集中豪雨は、限られた地域に、突発的に短時間に集中して降る豪雨で、梅雨の終わりごろによく発生します。
発生の予測は比較的困難で、中小河川のはん濫、土砂崩れ、がけ崩れなどによる大きな被害をもたらすことがありますので、気象情報に十分注意し、万全の対策をとることが必要です。

大雨情報をキャッチ!こんなときのわが家の安全対策

- ラジオやテレビなどの気象情報に注意する。
- 早く帰宅し、家族と連絡を取り、非常時に備える。
- 町や防災関係機関の広報をよく聞いておく。
- 飲料水や食料を数日分確保しておく。
- 停電に備え懐中電灯や携帯ラジオを用意する。
- 浸水に備えて家財道具は高い場所へ移動する。
- 非常時の持ち出し品を準備しておく。
- 危険な地域では、いつでも避難できるよう準備する。

つねに気象情報
には、注意して
おきましょう!